

産業カウンセラーと第二の人生

大塚 剛さん

会社名: 某大学附属病院
所 属: 総合がん診療センター
資 格: 産業カウンセラー

【受講のきっかけ】

「産業カウンセラーの資格を取得してみたらどう？」

キャリアカウンセラーの資格を持つ相談員のAさんが私に言ってくれた言葉です。これが、産業カウンセラー養成講座受講のきっかけとなりました。

4年前、私は生まれつきの疾患が悪化し、九死に一生を得る経験をしました。多くの方々の助けを受けて一命を救っていただいた「第二の人生」は、生きている喜びを実感できる毎日でしたが、同時に、今後の自分の人生をどう生きていったら良いのかという不安も抱えていました。それは、思うように体が動かない、体力が続かない、お金もない、そして仕事にも就いていなかったからです。毎日リハビリをして、少しずつ体調が回復しているのは実感できましたが、将来の不安が消えることはありませんでした。

そんな不安を家族に話すことができず、友人にも相談できないでいました。悩みに悩んで、ネットで自分の悩みを聞いてもらえる場所を探すようになり、見つけたのが「サポステ」と呼ばれる厚生労働省委託の支援機関である「地域若者サポートステーション」でした。そこで相談員のAさんとの出会いがあり、クライアントとして初めてのカウンセリングを体験しました。

面接では、「これからどうしたらよいか分からない」、「仕事に就けるのだろうか」、「また体調を崩したら…」など、様々な不安を話していました。私は以前、営業職に就いていたこともあり、人との会話が少なくなることへの不安感を



特に強く感じていました。それが将来への不安をより膨らませていたように思います。

不安だらけで将来が見えていなかった私が、Aさんとのカウンセリングで知ったのが「産業カウンセラー」の資格でした。講座を受講することで「聴く力」(傾聴力)が身につくこと、その「聴く力」はどんな仕事にも活かせることなど、「道が開けた」と感じられる話だったことを覚えています。

カウンセリングの後、それまで抱いていた不安感はなくなっていました。その時に「産業カウンセラーになりたい」という気持ちが芽生えたわけではありませんでしたが、将来的に必要なスキルだと思いました。こうして私は、養成講座の受講を決意しました。

【受講後の活動状況】

現在、私は医療機関で事務として勤務しています。産業カウンセラーの資格を取得した後、その資格を十分に活かすことのできる仕事はまだできていませんが、ADR(裁判外紛争解決手続)のような活動や「医療メディエーター」の仕事に興味を持っており、研修をスタートしています。また、相談員研修講座にも参加し、研鑽を積んでいるところです。

すぐに実務に関わることはできませんが、今後相談員としてのスキルを身に付けるとともに、医療メディエーターとして働きたいと考えています。それが、私の「第二の人生」における、今の目標です。